
転生

八二一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生

【Nコード】

N7909L

【作者名】

八二一

【あらすじ】

転生、チート。好きな人も居るけど嫌いな人も居る。

白い空間。ただただ白く、何も無い空間だった。気がつくとなんかここには一体ここは何処なのだろうか。

「あ、目、覚めた」

突然背後から男の声がした。俺が振り向くと確かに男が居た。中肉中背…よりも少し太り気味で黒いジャージを着ている。

「あ、アンタは？それに、ここは一体…？」

俺が今の状況に対して疑問を述べると男はニヤニヤと笑いだした。

「…どうしたんだ？」

「いやあ、本当に僕の思った通りだなあと思ってさあ。まあ当たり前なんだけど」

思った通り？当たり前？なんだ、どういう事だ？

「まあ種明かしすると、僕は君…いや君たちの創造者なんだよね。有り体に言くと“神”かな？」

男 自称“神”はへらへらと笑いながら説明した。
神だと？信じられん。

「『信じられん』…ねえ。そう思う事も織り込み済みなんだけど」

…ッ!? コイツ今、俺の思った事を…!?

「アンタ、一体?」

「だから言ってるじゃん。神だって。しつこいなあ」

神は何度も説明する事にイラついているようだ。坊主頭をガリガリと搔いている。「アゝゝ」と言いながら一頻り搔きむしると、神はハアと一息ついた。

「アホみたく簡単に説明するとさあ、お前は只のキャラクターなんだよね。僕の小説の」

「なんだって?」

今コイツは何と言った?俺が小説のキャラクターだと?

「で、僕はハニー。君等の作者。最近イライラしててね。…ハナクソみたいに『転生』とか『チート』とかって設定の小説が多くて。だから一石投じようと思ってさ」

「…という事は、俺は転生するのか?」

「しないよ」

「何故だ! 転生モノに意見する為なんじゃないのか!？」

「そうだよ。だから転生なんかさせないんだよ」

…どういう事なんだ？ 奴の言ってる事の意味が分からん。

「そうだよね、訳わかんないよね。当たり前だよ。創造物が創造者よりも頭良い訳ないもん。」

それはそうかもしれんが…何故転生させないのだろうか？

「転生も蘇生もさせない、一番残っ酷な最後にしようと思ってさ。辰巳さんとは別の方向だね」

そのまま神は語り続けた。

「だから君には『自分が被造物であること』を理解させた。その上で君を“消そう”と思ってさ。あ、実際に“削除”はしないよ。“君”という名も無き存在が消えるという『設定』なだけであって、この“転生”って話が無くなる訳では無いから…。そうじゃないと意味無いし。」

この事で僕が言いたいのには『世の中、不条理な事ばかりだ』って事と『創造物は創造者の考えを超える事は無い』って事なんだよね。君の作者である僕自身も誰かの創造物だろうし、僕がこの話を考える事もその創造者の意図だろうし、多分その創造者もその上の創造者の創造物だろうけど。

フフフ、だんだん“君”の意識もなくなっていく。おもしろいなあ、創造欲と破壊欲が満たされていくよ。

「俺が消えていく……。クッ、苦しい……！やめろ……！うわああアアあ
あー……………」

それも僕のシナリオの上さ。だんだんと君自身の考えや動きは無くなり、いつの間にかストーリーテラーは僕自身になる。シナリオ通りさ、全てね。

さあ、このくだらない小説もどきを“投稿”しようっと。

(後書き)

アンチ転生、アンチチートの作品です。二次創作とありますが、嘘です。もとい嘘でした。

普段は二次創作の転生&チートしか読まない人にも読んで欲しいのでそうしました。スピンアウトに対するスピンアウト、つまり三次創作のつもりで書きました。意見小説もどきです。

『世の中不条理な事ばかり』これは私が常々思っている事です。

『創造物は創造者を超える事は無い』これは多分普通の事です。精神年齢が10歳の人の創造物であるキャラクターの精神年齢は10歳よりも高くなり得ない筈です。これがどういいう事は読者の皆さん自身に考えていただきたいと思います。

ご意見、ご感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7909/>

転生

2010年10月15日22時21分発行